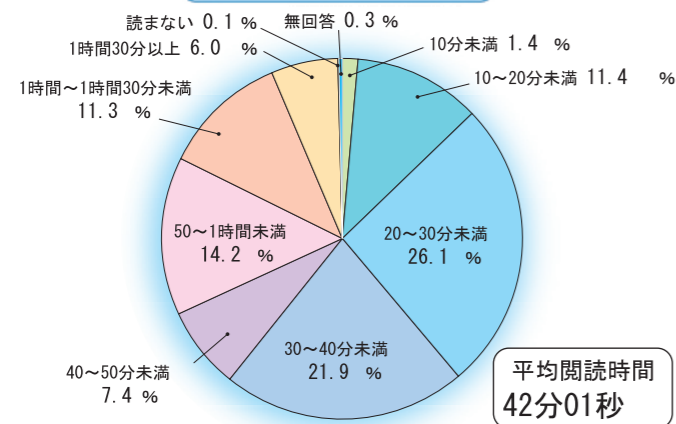


読者特性

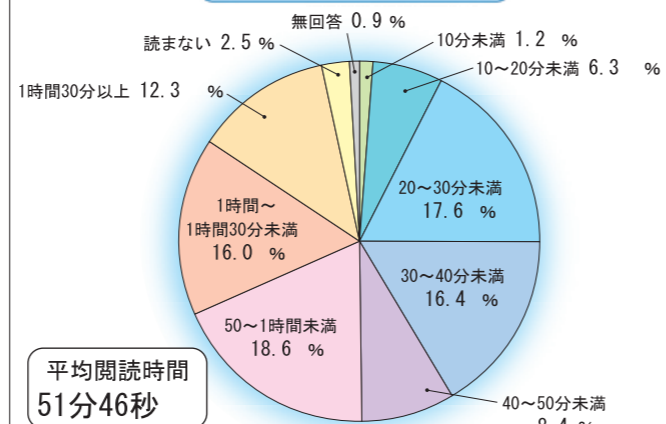
日刊スポーツの読者の多くは男性サラリーマンです。
 最近は女性読者も増え、現在20%を超えています。
 これは読者として定着したと言えるでしょう。
 同様に子供たちも含めて、若年層へも日刊スポーツのブランドは浸透してきました。
 スポーツ新聞は大人の男性が読む新聞というイメージは変わりつつあります。

読時間(平日)



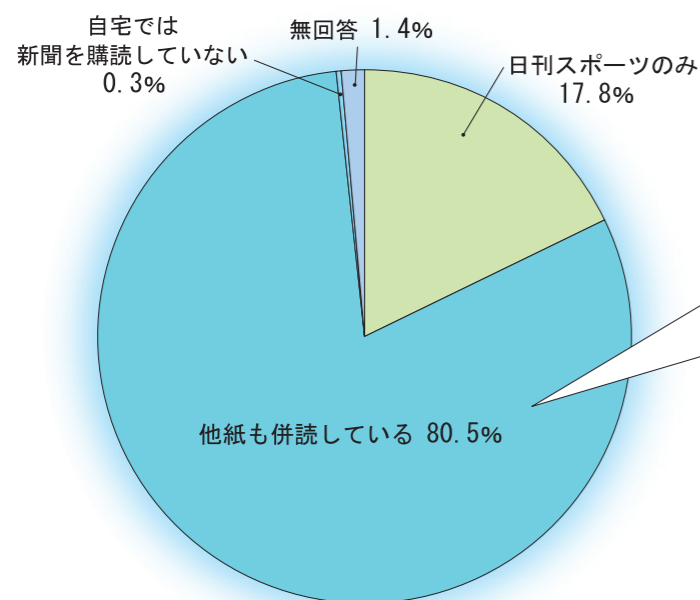
日刊スポーツの平日の読時間は平均約42分。2005年ACR調査では12~69歳の、全国の新聞の平日平均読時間は23分13秒ですから、データが豊富なニッカンには忙しい朝でもじっくり読み込まれています。

読時間(休日)



休日の読時間は平均約51分で、平日に比べ10分も長く読まれています。ACR調査では休日の平均読時間が23分41秒なので、ニッカンは倍以上の長さで読み込まれています。それだけ広告にも読者の目が注がれます。

宅配読者の併読率

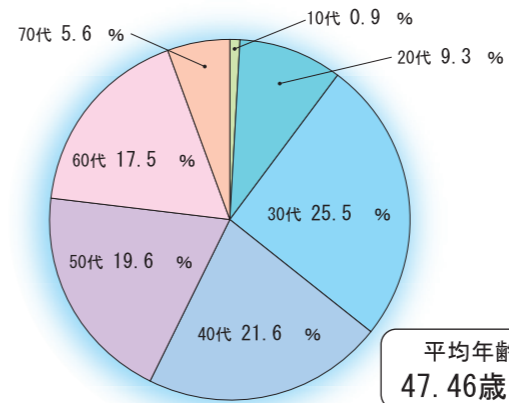


「日刊スポーツだけを家で購読している」という読者も多数。スポーツばかりでなく、社会面も充実したニッカンを読めば、世の中の動きが十分にわかります。

併読紙の内訳

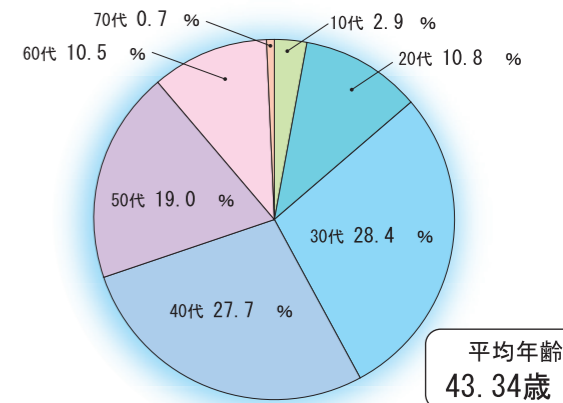
全国では	北海道地区では
朝日新聞 32.0%	北海道新聞 46.9%
読売新聞 16.8%	東海地区では
日本経済新聞 4.7%	中日新聞 36.8%
毎日新聞 4.7%	九州地区では
産経新聞 2.2%	西日本新聞 16.0%

年代(男)



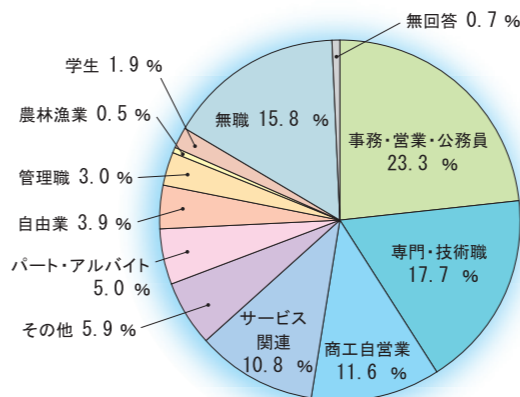
30~50代の男性が読者層の中心です。日本の社会を支える中堅層から幅広く支持されています。消費・購買能力も高く、広告ターゲットとしても期待できます。

年代(女)



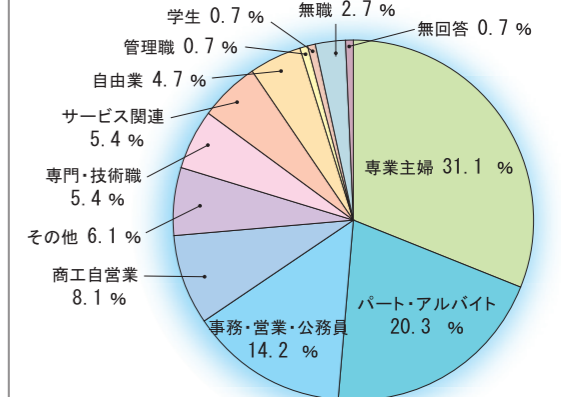
30、40代の主婦層が中心ですが、20代の若い女性読者も増えています。芸能面やテレビ面の充実に加え、サッカーなどのスポーツファンも女性の中で広がりを見せています。

職業(男)



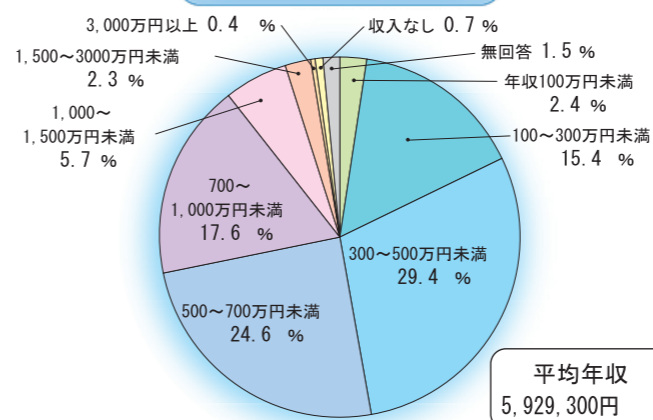
サラリーマンが最も多く、前日のスポーツの結果が職場の話題のタネになります。自営業やサービス業の男性にもバランスよく読まれており、読者層が広いのが特徴です。

職業(女)



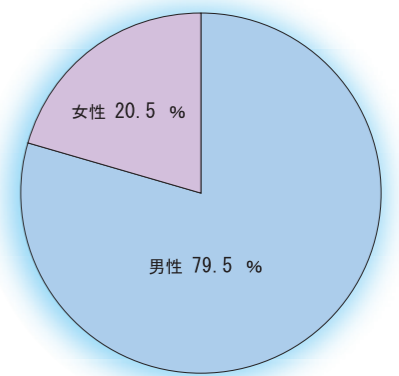
専業主婦が31.1%と宅配率の高さを反映しています。女性は芸能・レジャー情報に関心が高く、占星術は毎日必ず見るという読者が数多くいます。

世帯年収



購買能力も高く、広告効果が期待できます。年収700万円以上の世帯も約26%となっています。

男女比



女性の読者も増えつつあり、約20%が女性になっています。働く女性にもわかりやすい社会面などが好評です。